月刊 しばうら

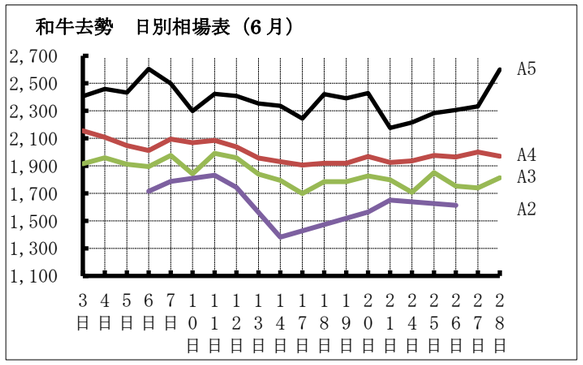
2024年　7月号

牛肉営業部

＜6月の相場動向＞

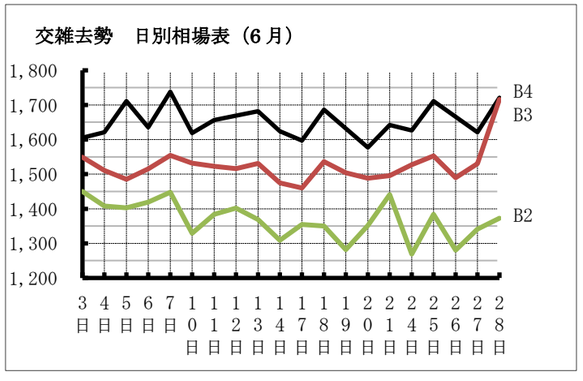
6 月は一年のうちでも最も牛肉需要が低迷する月のひとつであることに加え、様々な食品の値上げ、エネルギーコストの上昇、円安などによる節約志向により、昨年よりもさらに荷動きが悪い状況となり、相場も低迷した。消費意欲の低迷は牛肉需要にとって厳しい状況であり、和牛・交雑共に交雑 B3・B2 を除いて、前年実績を下回る結果となった。

訪日外国人の入国者数は5月までの直近3か月連続で300万人を超えているが、ニーズの多様化のためか、期待されたインバウンドによる牛肉需要の活性化には至っていない。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,413 円	-180 円	93.1%	-78 円	96.9%
A4	2,001 円	-197 円	91.0%	-140 円	93.5%
A3	1,846 円	-118 円	94.0%	-128 円	93.5%
A2	1,633 円	-151 円	91.5%	-43 円	97.4%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,644 円	-11 円	99.3%	-60 円	96.5%
B3	1,516 円	+51 円	103.5%	-74 円	95.3%
B2	1,361 円	+86 円	106.7%	-81 円	94.4%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	－	－	－	－	－
B2	－	－	－	－	－

＜7月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、5月の輸入量は前年同月比 4.6%増の 4 万 8,532 t で、うちチルドは 10.5%増の 1 万 7,790 t 、フローズンが 1.4%増の 3 万 742t となり、ともに前年同月比を上回り、前月比では 23.3%減少した。

農畜産業振興機構によると 5 月の牛肉輸入数量は前年同月比 4.6%増の 4 万 8,532t（チルド 10.5%増・冷凍 1.4%増）で、6 月は 3.1%減の 4 万 2,300t（チルド 0.6%減・冷凍 4.5%減）、7 月は 10.1 増の 4 万 2,600t(チルド 10.6%減・冷凍 31.0%増)と予測している。

冷蔵輸入量については現地価格の高騰などにより米国産輸入量の減少が見込まれることから 6 月はわずかに、7 月はかなりの程度、前年同月を下回ると予測している。

冷凍輸入量について 6 月は前年同月をやや下回り、7 月は前年同月の輸入量が少なかったことから前年同月を大幅に上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		5月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,821	6,265	124.8%
	米国	8,341	8,355	99.8%
	その他	1,628	1,498	108.6%
	合計	17,790	16,104	110.4%
フローズン	豪州	13,631	12,506	108.9%
	米国	8,692	10,490	82.8%
	その他	8,419	7,309	115.1%
	合計	30,742	30,305	101.4%

出典：食肉速報　　単位：t

＜7月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 7 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 103.7%の 9 万 9,300 頭で、品種別にみると和牛は 6.8%増の 4 万 9,000 頭、交雑種は 1.4%減の 2 万 2,700 頭、乳用種は 3.1%増の 2 万 6,400 頭と予測している。

また、東京食肉市場の 7 月のと畜頭数は 8,000 頭を予定しています。

＜7月の牛枝肉相場見通し＞

7 月の牛枝肉の相場見通しは、交雑種は出荷が前年対比 98.6%と予測されることや、輸入牛肉が不安定な入荷状況にあることから 3 等級中心に底堅い相場展開が想定される。

一方で和牛は 6 月から持ち越す市中在庫も多いとみられ、出荷量も前年対比 106.8%と予測されることから相場としてはやや盛り上がりに欠ける展開になると考えらえる。

物価高騰などに対する生活防衛意識も高く、節約志向は継続する見込みであることから牛肉需要が大きく回復するとは言い難いが、6 月から始まった定額減税効果が夏休み需要に多少なりとも波及することを期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,250～2,600	B4	1,600～1,700
A4	1,900～2,250	B3	1,500～1,600
A3	1,800～1,900	B2	1,400～1,500
A2	1,600～1,800		
乳牛去勢			
B3	1,000～1,150		
B2	900～1,000		

豚肉営業部

5 月の全国と畜頭数は、136 万 7,000 頭(前年同月比 0.1%減)と前年を下回った。また 5 月の豚肉通関数量は 9 万 4,126t（前年同月比 4.8%増）と前年を上回り、前月比では 4.8%の減少となった。内訳はチルドが 3 万 3,549 t （4.4%減）、フローズンは 6 万 577t（10.7%増）。

2023-2024 年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
比	100%	105%	120%	85%	98%	112%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

5月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	13,621	84.9%	デンマーク	6,889	106.5%
カナダ	16,062	102.4%	スペイン	17,962	93.6%
メキシコ	3,864	115.8%	メキシコ	5,964	80.8%
			アメリカ	10,882	160.7%
			カナダ	5,572	172.3%
合計	33,549	95.6		60,577	110.7%

単位：t

＜6月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3 日	56,700	822	800	679
4 日	64,000	828	805	803
5 日	57,200	825	794	690
6 日	62,400	741	710	616
7 日	56,100	684	639	798
10 日	60,900	658	646	567
11 日	63,900	646	636	749
平均	60,171/日			700/日

6 月に入り気温が上昇する中で、全国的に出荷頭数は減少傾向が続き、全国と畜頭数は 6 万頭を割り込む日も多くなった。相場は一時的に 800 円を超えたが、その後は反落した。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12 日	57,900	662	643	652
13 日	61,600	658	643	504
14 日	57,900	660	643	850
17 日	63,200	689	662	636
18 日	63,800	711	703	914
19 日	57,700	726	714	521
20 日	59,900	747	754	489
平均	60,286/日			652/日

前月末から断続的に豚熱の発生があり、疾病による出荷頭数減少の影響が出始めた。梅雨前の不需要期に入ったため末端消費は鈍く、消費者の節約志向も高いことから、スソ物以外の動きは決して良くない状況となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21 日	53,900	771	750	952
24 日	60,600	831	817	565
25 日	65,300	829	817	702
26 日	59,800	877	860	532
27 日	62,400	860	839	617
28 日	58,700	816	751	914
平均	60,117/日			714/日

関東地方では連日 30 度を超える暑さが続き、全国と畜頭数は 6 万頭を割り込む日も多くなった。末端消費は旺盛ではないものの、輸入物の品薄感と高値の影響が重なり、相場は 800 円を超える高値展開となった。

＜7月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和 6 年 7 月の肉豚出荷予測では 129 万 4,000 頭（前年比 103.8%）と予測している。当市場の 7 月集荷予定せり頭数は 1 万 6,700 頭、1 日あたりでは約 759 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 7 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 8 万 3,000t（同 110.9%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 900t（同 102.1%）、冷凍輸入量は 5 万 2,100t（同 116.9%）と予測。

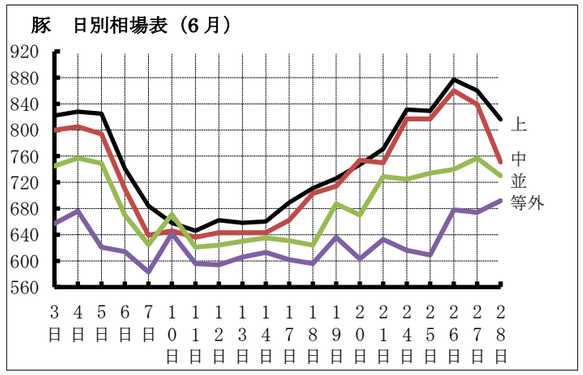
冷蔵品輸入量は、現地相場高の影響で減少が見込まれる米国産の代替としてカナダ産の輸入量が増加する一方で、価格優位性からメキシコ産の輸入量も増加が見込まれることなどから、前年同月をわずかに上回ると予測する。一方で 3 ヵ月平均では前年同期をわずかに下回ると予測する。

冷凍品輸入量は国内の輸入品在庫が多かったことや、前年同月の輸入量が少なかったことなどから、大幅に前年同月を上回ると予測する。同様に 3 ヵ月平均でも前年同期をかなりの程度上回ると予測する。

気象庁の予報によると今年の 7 月は平均気温が全国的に高いと見られており、猛暑による肥育豚の発育不良に加え、東北・関東での疾病の影響もあり、実際の出荷頭数は農林水産省の予想を更に下回る可能性が高い。

需要の見通しとしては、消費者の生活防衛意識が強まる中で、7 月は不需要期であるため中部位の売れ行きは鈍くなり、一方でスソ物やひき材中心の引き合いは継続すると予想される。また、学校給食が 4 週目以降に休みに入るものの、スソ物の需要は底堅く推移すると見られる。

以上のことから当市場の上物平均価格は 780 円前後、中物平均価格 750 前後の展開と予測する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127